

# 仏教受容の民族性と民俗性

—虚空蔵菩薩と十三仏信仰を事例に—

佐野 賢治

## P.2 鰻に乗る虚空蔵菩薩

(この図が本日発表の内容を集約しています)

黒潮の魚の大鰻の上に、中国・朝鮮半島経由で日本に伝わった仏教の菩薩、虚空蔵菩薩こくうざうぼさつが乗っています。鰻の分布しない日本の東北地方山形県のほぼ中央、白鷹山しらたかやまの大蔵寺だいざうじの本尊を表しています。よく見ると、女性神として描かれ、山の神信仰と習合しています。

日本では、土用の丑の日に鰻を食べる風習がありますが、鰻を決して食べない人、一族、村、地域があります。鰻は、虚空蔵菩薩のお使い、好物と言われ、この信仰に関係して食べないのです。

(人では、丑・寅年生まれの守り本尊。私も、寅年生まれなのでこの研究をするようになってから鰻を食べていません。)

一方、南太平洋の島々の多くの民族では、祖先崇拜と椰子の穀物起源神話が結び付き鰻を食べない習俗を伝えています(後藤明先生が研究されています)。椰子は、男神とされる鰻が殺され、

逆さに埋められそこから出てきた実と言われます。穀物起源神話は日本では『古事記』の大宜津比売おおほつひめの死に関係して登場しますが、インドネシア・スラベシ島での語りが標準となるハイヌウェレ型穀物起源神話として縄文時代に伝わったと大林太良先生などは指摘しています(岡正雄:母系的・陸稲栽培=狩猟民文化、東南アジア方面より縄文末期に日本に流入、種族文化 2 に相当)。一方、柳田國男は日本人・日本文化の形成を「祖先崇拜一家一稲作」の三位一体から醸成したと考え、その集成として死の前年 1961 年、『海上の道』を表します。「稲の道」として海上の道は、育種学から見るとインドネシアから北上するジャバニカ種がありますが細かいルートです(岡正雄:男性的・年齢階梯制的・水稻栽培=漁撈民文化、中国江南地方より、弥生文化における南方的と言われる諸要素をもたらす、種族文化 4 に相当)。しかし、「鰻の道」と考えると本流となります。

また、柳田は外来の宗教、特に仏教の影響を排除したところに日本人の固有信仰、祖先崇拜が認められるとし、戦後 1946 年『先祖の話』を表し、「仏教は祖霊を孤独にした」との仏教に対し否定的な見解をとりました。しかし、日本人の実際の葬送習俗は仏教的色彩が濃厚です。

アジア的性格の二大要素、稲作と仏教、この二つが最終的に合流した地が日本の東北地方です、この意味でもこの図は日本文化論、アジア文明を考える糸口をさまざま面から提供してくれます。

## P.5 民俗信仰の4類型

### 一固有信仰・民間信仰・民俗宗教・民族宗教

- ・ここでは成立宗教（教祖・教義・教団を有する世界宗教・創唱宗教、ex. 仏教・キリスト教・イスラム教）と固有信仰（ex. 自然崇拜・シャーマニズム・祖先崇拜）との関係から見る。
- ・固有信仰－柳田國男の民俗学は仏教はじめ外来宗教の影響を排除した祖先崇拜を核とした固有信仰を重視、祖霊神学と称された。
- ・民間信仰－民俗信仰の実態を成立宗教と固有信仰の混淆、神仏習合の相と見、時間軸、通時的立場を重視する、民俗信仰研究のもっとも一般的な視角。
- ・民俗宗教－1980年代より人類学等の影響もあり、共時的・社会学的な立場から民俗信仰の一地域における宗教的機能・構造の分析に注視する立場。
- ・民族宗教－成立宗教と固有信仰の融合実態を評価する立場。民族性、エスニック・アイデンティティの形成に影響する。（戦前、日本の民族宗教＝神道、仏教を排除、⇒修験道：神仏習合）